

グローバル・デリー・プラットフォーム

業績報告書 2025



グローバル・デリー・プラットフォーム
Jミルク仮訳

A young girl with dark, curly hair is shown in profile, drinking from a clear glass filled with white liquid, likely milk. She is wearing a light-colored, textured sweater. In the background, the arm and torso of an adult wearing a ribbed sweater are visible, suggesting a supportive or caring environment. The image is used as a background for the text overlay.

GDP の重点活動領域

2 | 酪農乳業の物語を伝える
11 | エビデンスを提供する

新たなナラティブによるブレークスルー



2年前、GDP（グローバル・デリー・プラットフォーム）は、農業（特に酪農乳業）が健康的で持続可能な食料システムを構築する上で中心的な役割を果たさなければならないという認識が世界的に高まりつつあるという極めて重要な機会に応える形で「世界食料農業ナラティブ活動」を立ち上げました。

そして2025年、この「機会」が目覚ましい進展へとつながりました。

栄養科学、社会経済発展、持続可能性、複数国間政策の分野における酪農乳業の多面的な貢献は、業界内だけでなく、世界の主要機関にも徐々に認識され始めています。進展が最も明確に見られた瞬間は、影響力が強い組織が酪農乳業の価値について私たちと一緒に主張し始めたときでした。

本報告書は、GDPが会員や連携協力組織とともに、戦略的関与、科学に基づくリーダーシップ、エビデンスに基づく提唱などによって世界的な議論における酪農乳業の存在感をいかに前進させたかを強調しています。GDPは、「ハイレベル国連交渉」、ブラジルでの「COP 30」、「成長のための栄養（N4G）サミット」や「EAT スtockホルム食料フォーラム」での食料システムの未来を形成するための議論において酪農乳業界の声を建設的に示しました。

重要なのは、私たちの取り組みが対話にとどまらないことです。2025年には、持続的なパートナーシップ関係とナラティブの一貫性が、東アフリカのDaIMAプログラムでの気候対策に対する3億5800万ドルの投資を得るという画期的な成果に貢献しました。数年前に「酪農乳業ネットゼロへの道筋（P2DNZ）」として始まった構想は、酪農乳業に焦点を当てた世界最大規模の気候の強靱性に関する活動へと発展し、調和のとれた戦略と堅実な関与の長期的な影響力を実証しました。このことは、人口増加と将来の牛乳乳製品の需要が集中する新興経済国における酪農乳業の重要性に対する認識が高まっていることもよく表しています。

これらはいずれも、GDP会員のリーダーシップとコミットメントなしには実現不可能でした。私たちは共に、栄養、生計、環境管理、強靱な食料システムに対する酪農乳業の最大限の貢献が世界的に認められ、支持されるように動き続けています。

私たちは、2026年の展望においても、エビデンスの拡充、パートナーシップの強化、健全で持続可能な世界の食料システムの中心における酪農乳業の地位の強化に焦点を当て続けていきます。

皆様のパートナーシップと継続的なリーダーシップに感謝いたします。

A handwritten signature in dark ink that reads "Donald Moore".

ドナルド・ムーア
GDP 専務理事

酪農乳業の「物語」 を伝える

食料システムに関して世界で最も影響力のある人達に
明確でエビデンスに基づく「物語」を業界として伝える
体制を整えます

戦略的な関係構築: 世界の食料と農業の「物語」の構築

2025 年の世界食料農業ナラティブ活動は、「連携関係の構築」から「目に見える影響力」へと移行し、栄養、持続可能性、世界の食料システム政策における GDP の関与の基盤となりました。この活動では、世界の食料システムを形成したり、増加する世界人口に食料を供給したり、栄養科学を進歩させるような機関との関わりを優先させています。

このセクションでは、GDP が酪農乳業の総合的なストーリーを影響力のある聴講者と共有した事例や、影響力のある組織が我々と共に酪農乳業の価値を明示する「場」をどのように作り出したのかを紹介します。

EAT 財団とのコラボレーション

GDP は、世界の食料システムにおける牛乳乳製品の役割について異なる見解を持つ可能性のある人々に牛乳乳製品の総合的ストーリーを伝える方法として、「敵対的協力」の理論を長年にわたって採用してきました。2025 年 8 月に発表された GDP と EAT 財団の戦略的協力協定は、「建設的でエビデンスに基づく関与」という GDP の戦略における画期的な実績です。

EAT 財団は 2026 年に活動を縮小すると発表しましたが、根本的な問題は依然として重要であるため、GDP は、健康で持続可能な世界の食料システムを構築するという共通の目標に関して関心のある分野を探索する目的で EAT 財団の旧メンバーやその他の人々との連携関係を継続します。

探求分野

- 持続可能な食料の生産と消費のための研究とエビデンスに基づく戦略の支援
- 世界的な対話への酪農家やバリューチェーンのリーダーらの登壇による多様な声の提示
- 健康的で公平かつ持続可能な食料システムを推進する政策議論への適宜協力

10 月初旬の EAT スtockホルム食品フォーラム (SFF) に、GDP スタッフ、酪農乳業企業の幹部、世界中の酪農家が参加しました。

注目点

- SFF 前のイベント「EAT Day of Action」において、スウェーデン、メキシコ、米国の酪農家が影響力のある研究者や経営者と直接対話しました。

イベント開催前の数カ月間、「EAT 農家・漁業者コミュニティの行動対話」に **6 名の酪農家が参加し**、EAT 財団のウェブサイト上で発表されている「行動計画」の策定に貢献しました。

- メイン会場のパネルディスカッション「最前線の農家」に、GDP が酪農乳業セクターの代表として参加しました。
- GDP の公式サイドイベント「人、地球、繁栄: 持続可能な食料システムに貢献する酪農乳業の課題と解決策」では、酪農家とともに、FAO、ILRI（国際畜産研究所）、GAIN（栄養改善のためのグローバル・アライアンス）とマッセー大学リデット研究所の「持続可能な栄養イニシアチブ」の講演者が登壇しました。



スウェーデン、メキシコ、米国の酪農家が「EAT スtockホルム食品フォーラム」の「EAT Day of Action」に参加しました



「EAT スtockホルム食品フォーラム」での GDP の公式サイドイベントでは、持続可能な食料システムへの酪農の貢献に焦点が当てられました

栄養科学関連イベントで酪農乳業の総合的ストーリーに焦点を当てる

GDP は、影響力の大きい会議に著名な専門家を招くことで、世界の栄養科学における牛乳乳製品の役割を高めました。



ナムコロ・コピック博士（ILRI エチオピア代表事務局長、CGIAR エチオピア代表、EAT-Lancet コミッショナー）が、「成長のための栄養サミット」のサイドイベント「世界を良くするための地域への投資：酪農乳業バリューチェーンの構築」で講演しました

成長のための栄養（N4G）サミット

GDP は、IDF（国際酪農連盟）とのパートナーシップおよび ILRI の支援により、公式サイドイベント「世界を良くするための地域への投資：酪農乳業バリューチェーンの構築」を開催しました。3 月にパリで開催された当イベントでは、酪農乳業バリューチェーンへの計画的な投資が、特に脆弱な地域において、いかに手頃な価格での栄養供給を加速し、生涯にわたって健康状態を向上させ、社会経済発展を促進するかについて、数名の専門家が講演しました。



シバニ・ゴース博士は、米国栄養学会年次大会「NUTRITION 2025」での「消化性不可欠アミノ酸スコア（DIAAS）」の実践的な応用に関するシンポジウム「世界の人々の健康のための食事タンパク質」において、世界的なタンパク質の専門家とシンポジウム参加者による議論の座長を務めました

NUTRITION 2025 - 米国栄養学会年次大会

米国フロリダ州で 5 月に開催された米国栄養学会年次大会「NUTRITION 2025」でのシンポジウム「世界の人々の健康のための食事タンパク質」において、世界的な専門家が持続可能な栄養と健康におけるタンパク質の「質」の重要性に関する最新のエビデンスについて発表しました。イリノイ大学とマッセイ大学リデット研究所が主催したこのセッションは、GDP と、シンプリー・グッド・フーズ社、栄養補助食品研究所（米国）、全国豚肉協会（米国）、全米肉用牛生産者・牛肉協会の共同出資により開催されました。



ステラ・ノードハーゲン氏（GAIN シニアテクニカルスペシャリスト）が、IUNS-ICN のセッション「健康で持続可能な世界を育むための食事の最適化」で講演しました

国際栄養会議（IUNS-ICN）

GDP は、世界最高峰の国際栄養科学会議において、マッセイ大学リデット研究所が主導する科学セッション「健康で持続可能な世界を育むための食事の最適化」の開催を支援しました。このセッションでは、地域に適した、文化的に適合する、栄養安全保障と社会/経済/環境的な持続可能性のバランスも取れた食事に、牛乳乳製品がいかに貢献するかが示されました。8 月にパリで開催された当会議中の複数のセッションで、世界的な科学者らが、プロテオス計画で得られた知見、最小コストで栄養的に適切な食事の算出、酪農研究コンソーシアム（DRC）と GDP などの資金援助による iOTA 食事最適化モデル研究の結果に焦点を当てました。

気候週間ニューヨークで栄養と気候変動対策について議論する

GDP は、気候週間ニューヨークにおいて、持続可能な食料システムにおいては栄養と気候変動対策を同時に推進する必要があることを強調しました。GDP は、健康で持続可能な食料システムにおいて増加する人口に栄養を与えると同時に環境への影響を軽減するという課題をテーマとするハイブリッドイベント「健康で持続可能な食料システムに栄養と気候に対する行動が必要な理由」を 9 月 24 日に開催しました。講演者のアポリネール・ジケン教授（ILRI 事務局長）、タナワット・ティエンシン氏（FAO 事務局長補兼主任獣医師）、マリオ・ヘレ教授（コーネル大学）らは、栄養と気候問題の解決策における家畜の多面的役割を強調しました。また、酪農乳業企業や酪農家が成長する世界に持続可能な食糧を供給するという課題にどう取り組んでいるかについても議論しました。



アポリネール・ジケン教授（ILRI 事務局長）が開会の辞を述べました



パネリストには、酪農乳業企業数社の幹部、米国の酪農家、主要な非営利団体の代表者が参加しました



ハンナ・ソンダーガード氏（アーラ・フーズ社 CASO/EVP）が、アンドレア・ポロ氏（World Farmers' Organisation 事務局長）らが登壇したパネルディスカッションの司会を務めました

影響力のある国連関連組織との連携

GDP は、2025 年を通して、国連機関、加盟国、関連組織との戦略的パートナーシップを強化することで、国連や多国間連携内での影響力と信頼性を構築し続けました。また、世界の酪農乳業の一貫した物語を、国連の「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に沿う形で強化しました。

GDP は、酪農乳業が栄養安全保障、気候に対する強靱性や生計に明確に貢献することを示す複数のサイドイベントを開催しました。また、GDP の幹部が、健康で持続可能な世界の食料システムにおける酪農乳業の役割の認知を強化するために、国連機関、加盟国、世界のオピニオンリーダーとのハイレベル二国間会合を 30 回以上開催しました。

酪農乳業大使プログラム

GDP の酪農乳業大使プログラムは、酪農家と業界のリーダーが世界的な政策議論に直接情報を提供することを目的としています。

2025 年は、酪農乳業大使が国連のハイレベル会合のパネルディスカッションなどで意見を述べたり、世界的リーダーとの 1 対 1 討論で酪農乳業セクターの重要な役割について議論しました。

- 参加プログラム**
- 国際アグリ・フード・ネットワーク・民間セクターメカニズムの定例年次大会（7 月 1-2 日）および FAO 会議（ローマ）
 - 第 2 回国連食糧システムサミットフォローアップ会合（アディスアベバ 7 月）
 - 世界食糧フォーラム（ローマ 10 月）
 - 第 7 回国連環境総会（ナイロビ ケニア 12 月）

非感染性疾患（NCD）とメンタルヘルスに関する国連世界政治宣言の策定

GDP は、非感染性疾患とメンタルヘルスの課題に総合的なアプローチで取り組むための国連世界政治宣言についての意見具申を、酪農乳業大使やスタッフから積極的に行いました。

GDP は、継続的に関与することで、草案が最新の科学を反映するものとなり、栄養に優れた牛乳乳製品が不用意に悪影響を受けることがないように努めました。政治宣言草案は、9月のニューヨークの国連本部での第4回国連非感染性疾患ハイレベル会合が開催される前に作成されました。



GDP は、交渉プロセスにおいて、
「健康的でバランスのとれた食事における牛乳乳製品の役割を正しく反映させた科学的根拠に基づく栄養政策」を一貫して提唱しました。

草案には、工業的に生成するトランス脂肪酸と自然由来のトランス脂肪酸の明確な区別、超加工食品の極端な定義に対する警告、栄養に優れた牛乳乳製品へのアクセスを意図せずに阻害する可能性のある政策アプローチへの反対などが含まれていました。他にも、GDP は、牛乳乳製品を非感染性疾患予防の解決策の一部として位置づけさせることで、栄養の妥当性、食料安全保障、持続可能な食料システムへの貢献を強調させました。

12月に承認された最終文書は、当セクターの主要な懸念と優先事項の多くが反映され、最新の栄養科学に適切に整合するものとなり、牛乳乳製品の消費や政策に悪影響をおよぼす可能性がある文言は避けたものとなりました。

FAO への関与

2025 年における GDP の主要な FAO 関連の取り組みは、9月に開催された「持続可能な畜産変革会議」でした。IDF、DSF、米国乳製品輸出協会（USDEC）とともに GDP が共同開催したサイドイベント「酪農乳業を最も脆弱な人々のために役立たせる」では、畜産セクターの持続可能な発展が、経済的、社会的、栄養的な恩恵を脆弱な人々に変革的にもたらし得ることについての登壇者らの議論が繰り広げられました。



会議では、エルネスト・レイエス氏（GDP 酪農開発セクター長）が講演しました

登壇者のマキシモ・トレロ氏（FAO チーフエコノミスト）、ジョナサン・ムエケ氏（ケニア家畜開発省首席秘書官）、オリビエ・カマナ博士（ルワンダ農業畜産資源省農業事務次官）らは、低排出で気候に対する強靱性が高い酪農システムに移行させるプロジェクトへの資金提供の重要性について議論しました。

当イベントは、官民の協力が、生産性の向上、栄養改善、環境の持続可能性、生計の安定性をいかに支援し得るかについての理解を高めさせました。また、持続可能な畜産変革における酪農乳業セクターの役割を確立させるリーダーとしての GDP を立ち位置を明確にしました。

GDP がブラジルでの COP30 で酪農乳業の総合的ストーリーを示す

GDP の世界ナラティブ活動は、11 月にブラジルで開催された気候変動枠組条約第 30 回締約国会議（COP 30）の開催前ならびに開催中の GDP の関係構築活動を方向づける基礎となりました。



GDP は、ブラジリアで開催された COP30 の事前イベントに参加しました



COP30 の GDP 公式サイドイベントでは、数名の講演者が酪農乳業開発について議論しました

COP30 の直前にブラジリアで開催された 2025 年米州農業大臣会議で米州 34 カ国の代表が承認した「閣僚宣言」において、酪農と畜産の総合的価値が強調されました。GDP は、「宣言」の作成段階に代表者のグループと協議を行いました。

ベレンで開催された **COP 30** において、**GDP は明確で戦略的な役割を果たしました**。具体的には、数件の講演を行い、4 件のテーマ特定イベントを主催し、さらに、政府、市民団体、民間セクターなどのステークホルダーを招いての二国間協議を開催しました。

ケニア政府と共催の GDP 公式サイドイベント「東アフリカにおける適応・緩和・持続可能な酪農乳業システムへの投資」において、登壇者らが、拡大展開によって効果を高めることができる方法論について重点的に議論するとともに、世界の酪農乳業が計画・調査・実行・実績において進展していることを強調しました。

GDP は、世界的な事業団体を介して「農業交渉」を主導し、さまざまな議論に酪農乳業の話題を持ち込みました。GDP はまた、気候に適合した酪農乳業の開発、栄養や生計の面での成果、炭素市場に対する準備、などに関するパートナーシップ構築を進めました。そして、世界の気候関係者とエビデンスに基づく関与をすることについて改めて表明しました。

酪農乳業セクターの会議での強力な連携

GDP-IMP

GDP は、4 月にオーストラリアのメルボルンで開催された GDP と IMP（International Milk Promotion Group）の年次会合に参加した 60 人以上の国際的コミュニケーションリーダーとともに、世界ナラティブ活動の連携体制を強化しました。

イベントでは、様々な主要な関係者とのコミュニケーションの好事例、AI の台頭、酪農家の視点などについてのセッションが行われました。GDP-IMP 会議の後、約 20 人の民間企業のメンバーがニュージーランドのオークランドを訪れ、ニュージーランドの酪農乳業について学ぶため、フォンテラ社の契約農場、フォンテラ本社、GDP の会員である家畜改良組合（LIC）を訪問し、乳牛の低メタン排出と暑熱耐性に関する遺伝子研究プログラムについて学びました。

NOURISH 2025

GDP は、10 月にロンドンで NOURISH 2025 を開催しました。「食料システムの未来を支える」をテーマに、世界の食料システムにおける地政学的影響、増え続ける世界人口をどう養うか、イノベーション、栄養を議論する際の信頼の役割、酪農家の強靱性など、世界的ナラティブ活動を反映するトピックが取り上げられました。イベントで全体のモデレーターは、元ネスレ役員のロブ・キャメロン氏が務めました。



パネルディスカッションでは、酪農乳業企業の CEO が業界の将来について意見を述べました



メアリー・アンカーズ氏（左）とニルス・ベステン氏（右）が、酪農家の視点についてのセッションで登壇しました

- 主なセッション**
- グンヒルド・ストルダレン博士（EAT 財団 共同創設者/議長）とハンナ・ソUNDERガード氏（アーラ・フーズ社 EVP/CASO）の「世界の食料システムの未来」についての対話
 - ベンジャニ・ムカンブラ氏（GAIN 技術責任者）氏、ミーネシュ・シャー氏（NDDB 議長）らによるパネルディスカッション「増え続ける世界人口をどう養うか」
 - 欧州/英国、米国、アジアの専門家らによる「地政学が世界の食料システムをどう変化させているか」
 - UK デーリー・ロードマップの評価と国外での応用についての示唆

NOURISH 2025 は dsm フェルミニッヒ社とコ・バンク社がスポンサーとなって開催されました。

GDP 年次総会

2025 年の [GDP 年次総会](#) は、できるだけ多くのメンバーが参加できるように、12 月 3 日（米国時間）にオンラインで 2 回開催されました。世界ナラティブ活動、COP30、栄養科学、持続可能性、社会経済的影響に関する GDP の最新情報に加え、エレン・セシル・ライト氏（EAT 財団 シニア・サイエンス・オフィサー）が、2 カ月前に発表された「EAT-Lancet 2.0 惑星健康食」について講演し、その後、質疑応答を行いました。

地域オピニオンリーダー・フォーラム

GDP は、数カ所で世界ナラティブ活動の戦略的焦点を共有しました。

主な内容

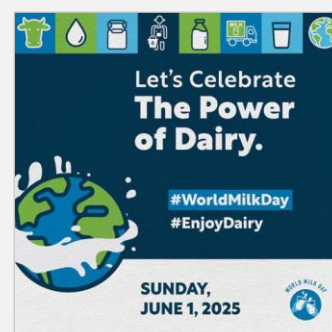
- 6 月に開催された「持続可能な家畜に関する EU・中南米・カリブの対話」では、GDP が世界ナラティブ活動に関する基調講演を行いました
- 5 月にアイスランドで開催された「北欧酪農乳業会議」では、GDP が北欧の酪農乳業企業の幹部に対して「[酪農乳業のファクトー覧](#)」と「課題解決型メッセージ」を説明し、この地域のナラティブ活動の体制を強化しました。

「世界牛乳の日 2025」における記録的なリーチとエンゲージメント

2025 年の「[世界牛乳の日](#)」は、「牛乳乳製品のチカラを称えよう！」のテーマに沿う前例のない業界の連携があった結果、世界全体で 12 億 5000 万人へのリーチと 275 万件のエンゲージメントという記録的な成果を達成しました。このキャンペーンでは、酪農乳業企業、業界団体、非営利団体、国連機関、政府の主導で、対面とオンラインの様々なイベントが行われました。GDP は、酪農乳業セクターが世界の最も困難な問題のいくつかに対する解決策の一部となり得ることを主旨とするメッセージと動画を作成しました。

主な内容

- アイルランドでのフェスティバル、フランスやニュージーランドなどでの農場訪問を始めとする対面イベント
- 日本での「ミルクの「牛乳の日・牛乳月間」の取り組みや、南アフリカでの牛乳乳製品からのエネルギー摂取の寄与についてのコンテンツなどの、革新的デジタルキャンペーン
- スリランカ、ノルウェー、コロンビアでの発表記事を始めとする、牛乳乳製品の栄養特性についての情報記事
- チリ、オランダ、インドなどでの牛乳乳製品を総合的に称える話法



栄養と食料システムの科学の進展に関する GDP 見解書を定期発行

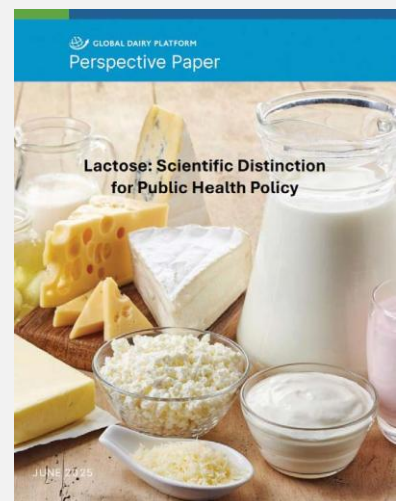
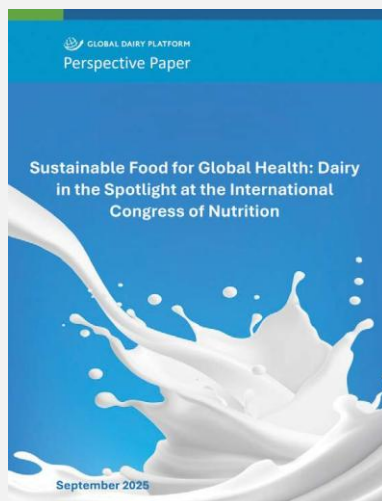
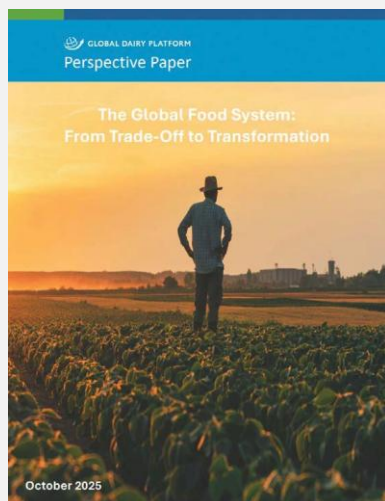
GDP は、2025 年も、世界の課題に直結する栄養と食料システムに関する緊急の議論についてタイムリーでエビデンスに基づく分析をする「GDP 見解書」を定期発行することで、信頼される科学的・政策的リーダーとしての役割を強化しました。2025 年のシリーズでは、複雑な科学を明確な「提唱する行動」に「翻訳」することで、酪農乳業セクターが政策議論に自信を持って参加し、世界の目標の達成を支援し、政策立案者や業界リーダー、世界中のステークホルダーに酪農乳業を健康的で強靱で持続可能な解決策の一部として位置づけさせるのに必要なエビデンスとガイダンスを提供しました。GDP 見解書では、一年を通して継続的に重要な問題を取り上げました。

取り上げた 重要課題

- 動物由来食品を排除すると食事コストが上昇してタンパク質や微量栄養素の欠乏が悪化するおそれがある低・中所得国を中心に、最小コストで栄養的に適切な食事を提供する上で酪農乳業が重要な役割を果たすことについて
- 単一の栄養素や加工度合についての単純で還元主義的なアプローチよりも、習慣的食事様式や食料システムについてのアプローチを考慮した方が、栄養政策がより実用的になることについて
- 持続可能な酪農乳業への変革は、栄養へのアクセスを改善し、生計を強化し、栄養供給量当たりの排出量を削減することによって、栄養安全保障、環境対策の進捗、社会経済成長を同時に支援することについて

10 件の見解書の発行により、情報に基づく対話を促し、還元主義者のナラティブに異議を唱え、「健康的な食事」を食品に基づく総合的アプローチで考えることの重要性を強調しました。

一連の見解書により、世界のあらゆる地域で、酪農乳業が、栄養、健康、持続可能性、社会経済発展に対して多大な貢献をすることを強調しました。



エビデンスを 提供する

栄養/持続可能性/社会経済的影響



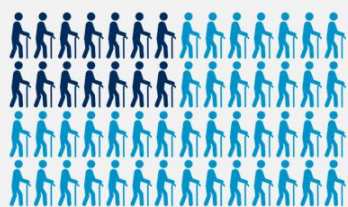
エビデンスを提供する

栄養：持続可能で健康的な食事における牛乳乳製品の価値を示す

エビデンス構築の優先領域

GDP は、目的を絞った研究、ストーリー構築、提唱により、健康的で持続可能な食事と食料システムにおける牛乳乳製品の重要な役割を実証する科学的エビデンスを強化し続けました。2025 年は、GDP の栄養科学部門では、持続可能な食事と食料システム、乳タンパク質、乳マトリクスの3つの優先領域でのエビデンス構築に注力しました。

2050年までに、80歳以上の高齢者の数が
3倍になると予測されています



WHO. 2024. Aging and Health Fact Sheet.

持続可能な食事と食料システム

GDP は、牛乳乳製品の食料システムへの貢献についての世界に向けたメッセージを一貫させ、牛乳乳製品が栄養に優れ、手頃な価格で、持続可能で、影響力があることを強調する「酪農乳業のファクトー覧」(P20~21)を作成しました。簡潔で、エビデンスに基づく当ツールは、世界の酪農乳業セクターに、いま最も緊急な食料システムの課題に直接答える形の明確で一貫したメッセージを提供しています。

食事タンパク質

「プロテオス計画」で得られた知見は、査読付科学雑誌に掲載され、また、年間を通して影響力の大きい科学会議で影響力のある参加者に紹介されました。

Frontiers in Nutrition 誌の別巻に掲載された「**人々の健康のための食事タンパク質**」は、科学的および政策的な強い関心を集め、2025 年 1 月に発表されてからの閲覧数が **161,000 回以上**となっています。

Dietary protein for human health

Edited by
Wouter Hondriks, Paul Moughan, Suzanne Hodgkinson,
Marco Mendirik, Sylvia Chungchunlam and
Nikkie Van Der Weiden

Coordinated by
Wen Xin Janice Lim and Natascha Stroebeinger

Published in
Frontiers in Nutrition



GDP ウェビナー「たんぱく質の質に関する次の研究と施策」では、世界中の人々の健康におけるタンパク質の「質」の重要性を論点とし、タンパク質の「質」の測定方法についても検討しました。GDP は、食品中のタンパク質とアミノ酸の回腸での消化率に関する FAO と国際原子力機関の共同データベースへのプロテオス計画などのタンパク質の「質」のデータの追加についても議論しました。当データベースは、公開後、自由にアクセスできる世界的な重要資料となります。



乳マトリクス

GDP が事務局を務める DRC は、査読付学術誌 Critical Reviews in Food Science and Nutrition に掲載された特別記事集「食事および健康における乳マトリクスの重要な役割」の執筆を支援することで、食品マトリクスの概念が科学界で注目され続けるように働きかけました。食品マトリクス、特に栄養と健康におけるヨーグルトマトリクスの重要性を論点とする記事が既に発表されていますが、牛乳やチーズのマトリクスを含む乳マトリクスの全体像を論じる別の論文も査読を受けている最中です。こうしたエビデンスの集積は、健康的で持続可能な食事様式に牛乳乳製品を含めることの科学的根拠をさらに強固にしています。

エビデンスを提供する

持続可能性：酪農乳業が、責任を持っており、
持続可能で、影響力があることを示す

酪農乳業ネットゼロへの道筋

2025 年は、酪農乳業の気候に関する世界的な行動プロジェクトである「[酪農乳業ネットゼロへの道筋](#)（P2DNZ）」が大きく前進した年となりました。P2DNZ は、GDP が主導し、IDF、SAI プラットフォーム、ILRI、DSF および IFCN が管理する共同活動です。

P2DNZ は、先進国と新興地域の両方で気候変動対策に取り組む酪農乳業のプラットフォームです。先進国市場では、GDP が「家畜栄養と酪農生産の革新」や「GHG 会計基準」をテーマとするワークストリームを主導しています。GDP は、新興地域においては、酪農乳業セクターを変革させ、栄養へのアクセスを向上させ、社会経済成長を促進し、排出量を削減することを目的とする複数のプロジェクトを主導してきました。

新興地域は、酪農由来の温室効果ガス排出量が世界合計の約 80%を占めており、また、将来の牛乳生産量増大の大部分を占めることになります。酪農乳業セクターの総排出量の推移は、政策立案者、投資家、消費者が牛乳乳製品をどのように認識するか基準となっています。

新興地域での排出量増加に対処せずに先進国市場における改善をするだけでは酪農乳業の世界的な見通しを変えることはできません。そして、酪農乳業セクター全体に対する監視が強まり、酪農乳業が事業を営むための世界的な社会資格が損なわれるリスクが生じます。

つまり、新興地域における GDP の取り組みは、発展そのものの成果だけでなく、長期的な信頼性、強靱性、および気候変動に責任を負う食料システムにおける酪農乳業の世界的な位置づけをも守ることになります。

酪農乳業ネットゼロへの道筋



新興地域における活動

東アフリカでの P2DNZ プロジェクトに 3 億 5800 万米ドルの資金を提供

GDP が主導する P2DNZ の取り組みでは、東アフリカのケニア、ルワンダ、タンザニア、ウガンダにおける気候に対する強靱性の強化と温室効果ガス排出削減を目的とするプロジェクトに対して、IFAD（国際農業開発基金）と GCF（緑の気候基金）から 3 億 5800 万米ドルの画期的な資金提供を受けられることが 7 月に決定しました。

「酪農乳業の緩和と適応のための介入プログラム（DaIMA）」は、GDP 主導の活動「東アフリカにおける P2DNZ: 東アフリカにおける低炭素で気候変動に強い畜産の推進」から発展したものです。この活動は、畜産に依存する地域の強靱性を強化すると同時に、畜産セクターからのメタンなどの GHG の排出を削減することを目的とするものでした。

DaIMA は、GDP、ペイン & カンパニー社、グローバル・メタン・ハブ、USAID の支援のもとで、IFAD と FAO 投資センターが共同で計画しました。

DaIMA は、250 万軒もの小規模農家に直接、さらに酪農乳業バリューチェーンに関わる 1500 万軒の小規模農家に間接的に、支援を提供することができます。

新興地域における P2DNZ プロジェクトのその他の最新情報:



- パキスタン:** GCF が直接関与する組織「国家農村支援プログラム（NRSP）」は、GDP と協力して、GCF の初期承認を得るために 1 億 9000 万ドル規模のプロジェクトの計画概要書を提出しました。このプロジェクトは、パキスタンの酪農乳業にとって変革的な取り組みとなる可能性があります。
- 中南米:** 2025 年後半に、GDP は中南米での取り組みを CAF（ラテンアメリカ・カリブ開発銀行）とともに再び活発化させました。CAF は現在、プロジェクト管理者を雇用し、GCF に提出するコスタリカとウルグアイについての計画概要書の作成を進めさせています。

先進国でのワークストリーム

GDP と会員は、[家畜栄養](#)、[乳の加工処理](#)、[GHG 会計](#)をテーマとするタスクフォースの活動を進捗させました。

家畜栄養タスクフォース

本タスクフォースは、次の 3 つの主要分野で世界的な進捗を実現しています。

- 酪農システムの最適化
- 栄養システムの強化
- イノベーションの導入の加速



2025 年 3 月にオランダで開催された対面ワークショップでこれらの重点分野すべてを前進させており、2026 年以降にはさらに改善する見込みです。トラウ・ニュートリション社から助成金の支援を受けている当活動は、すべての企業と家畜栄養サプライヤーが参加可能です。

乳の加工処理タスクフォース

当タスクフォースでは、新ウェブサイトとコミュニケーション戦略の構築を進めることでメンバーを増加させており、2026 年には経済モデルのソート・リーダーシップ文書の作成に取り組むことになっています。テトラパック社が当活動を支援する助成金を提供しています。この活動は、すべての酪農乳業企業と機器サプライヤーが参加可能です。

GHG 会計タスクフォース

世界的な酪農企業数社も参加している当タスクフォースは、SAI プラットフォームと連携して「酪農乳業セクターにおける GHG 報告のためのマス・バランス・チェーン・オブ・カストーディ・ガイダンス」を作成しました。

2026 年に公開される予定の当ガイダンスは、バリューチェーン内の「緩和」の報告に使用できる「標準化マス・バランス・チェーン・オブ・カストーディ・プロトコル」の確立に基づく「GHG プロトコル：土地セクターおよび除去ガイダンス (LSRG)」についての重要な考察を提供することを目的としています。

これにより、「GHG プロトコル: LSRS」に沿う、世界の酪農乳業バリューチェーン全体に一貫する方法論が確保されることになります。

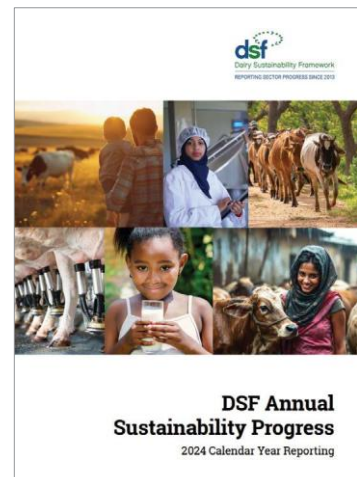
当タスクフォースは、LSRS と整合するプロトコルの開発中に、複雑な酪農乳業バリューチェーンの問題に取り組むには「フェーズ 2」文書が必要であることに気づきました。「フェーズ 2」文書は、IDF アクションチームとともに開発中です。両文書は、IDF 酪農乳業セクター資産ライブラリーに加えられる予定です。

デリー・サステナビリティ・フレームワーク（DSF）

12 年間の観測と報告からの考察

DSF は、「DSF 持続可能性年次進捗報告書」を軸に観測と報告を続けることで、世界の酪農乳業の持続可能性活動の推進を主導しています。11 月に発表した最新の報告書は、2024 年の世界全体の成果をまとめたもので、世界の公式な生乳生産の 52%分について集計・報告しています。

そのデータは、持続可能性の進捗を強力に表しています。DSF 評価項目の優先設定では、「飼養管理」が 3 年連続でのトップとなり、「GHG 排出」が僅差でそれに続きました。



経年推移の報告

DSF は、2025 年に経年推移のデータ報告を開始し、11 の評価基準のそれぞれについて 5 年間にわたる進捗を示すことで、酪農乳業セクターの持続可能性の継続的な改善を強調しました。2025 年の集計結果は、2026 年の第 4 四半期に発表する予定で、経年推移の報告も継続する予定です。

戦略プランの更新

「DSF 戦略プラン 2025-2030」は、DSF 年次総会において DSF 理事会から発表されました。「DSF 戦略プラン」の第 2 弾となる当プランは、DSF 諮問委員会や DSF 会員（特に重要）を含む酪農乳業セクター内外のステークホルダーによる幅広い検証作業を経て完成しました。



DSF ステージ 1 活動の拡大

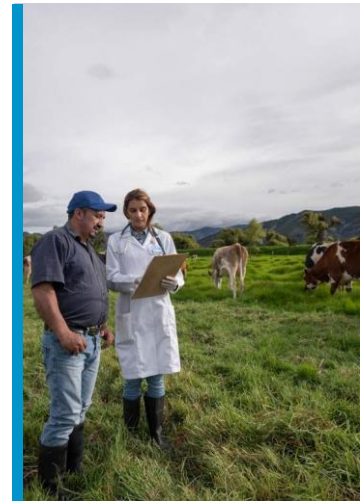
最新のステージ 1 会員実証試験制度は、持続可能性への取り組みを始めたばかりで「DSF の手順」を実行するのに必要な経験や資金が限られている DSF 会員を支援するもので、できるだけ早期に DSF の正規会員に移行できるよう支援と助言をします。

ジンバブエ酪農家協会との最新の实証試験活動は、全国酪農開発委員会（インド）、ジャールカンド生乳生産者連盟（ジャールカンド州）、シュリージャ生乳協同組合（アーンドラ・プラデーシュ州）とのパートナーシップで実施している既存の活動を参考に進められています。

DSF ステージ 1 会員制度は、DSF の活動を小規模の新興酪農乳業地域に拡大することで、市場タイプに関わらず、世界中の各地域が持続可能性の取り組みに参加するよう促します。「DSF 戦略プラン 2025-2030」に詳述されているように、今後数年間でより高いレベルのステージ 1 活動を実施することを目標として掲げています。

中南米における持続可能性の推進:

GDP は、DSF 理事のパンアメリカン酪農連盟（Fepale）、米州農業協力機構（IICA）および CAF（ラテンアメリカ開発銀行 CAF）の協力を得ながら、ウルグアイ、コスタリカ、ドミニカ共和国での DSF の持続可能性活動に参加しています。18 カ月にわたる当プロジェクトの目的は、中南米諸国が「DSF の手順」を活用しながら国ごとの持続可能性活動を展開して地域における環境面や経済面の強靱性を長期的に高めることができるように、拡充可能な活動基盤を整えることです。現在は、Fepale の主導で、参加国を毎年増やす計画を策定しています。最終的には、参加各国の酪農乳業セクターが年次進捗データを DSF に報告するようになります。



DSF は、GDP からの全額出資を活かして、世界的な連携、明確な進捗、酪農乳業の持続可能性活動の範囲拡大をそれぞれ加速させ続けています。DSF は、酪農乳業セクターの継続的な改善を報告する統合的な機構として役立っています。

DSF は、世界各地で参加協力者を増やし、新たな戦略的パートナーシップを構築し続けることで、今以上に持続可能で強靱な未来を目指して懸命に取り組む酪農乳業セクターの礎であり続けています。持続可能で強靱な酪農乳業セクターの未来は、データに基づく揺るぎない真の「物語」を生み出し、牛乳乳製品を農産品の中でも特別な存在にすることができます。

GDP が世界畜産炭素市場活動を主導

GDP は「世界畜産炭素市場の潜在力の解放」活動を主導し、複数のイベント、討論会、研究事業を実施しました。この活動を集約する形で、10 月 7 日にロンドンで世界会議を開催しました。



世界会議では、パネルディスカッションや3件の炭素市場モデルについて議論するワークショップなどが行われました



トム・ヴィルサック元米国農務長官がロンドンでの世界会議で講演し、この活動の推進を支持しました

GDP の主導とゲイツ財団の資金提供による 1 年以上にわたる活動を集約するキンプトン・フィッツロイ・ホテル（ロンドン）での世界会議に、炭素市場分野のリーダー、専門家、イノベーターら 100 人以上が参加しました。GDP は、ナイロビ、ジャカルタ、ニューデリー、サンノゼでの地域会議も主催し、各国の市場の現状と市場規模の拡大に必要なことについて学びました。当活動は、進化する炭素市場の中で、畜産を信頼性と整合性の高い気候変動対策手段として確立することを目的としています。

ロンドンでのイベントでは、講演者らが、畜産炭素市場とは何かの説明、現在の市場についての解説、成功事例の紹介、現在の市場システムに代わる選択肢の提示、次の段階についての議論をしました。

GDP は、今後、事務局業務と 2027 年までの独立組織化の推進を担当する**新たな国際管理運営組織を設立することで、世界の畜産炭素市場を前進させるための活動**を支援します。

GDP は、ケニアとインドを対象とする炭素市場設計プロジェクトへの資金提供をゲイツ財団から受けており、また、中南米での同様の事業に CAF と協力して取り組んでいます。

「アフリカの酪農乳業開発」から得られた価値ある教訓

GDP がランド・オレーク・ベンチャー37 社およびベイン&カンパニー社と共同で 2019 年に設立した「アフリカの酪農乳業開発（DNA）」は、官民連携による新しい手法でアフリカの酪農乳業システムを変革させることを目的としています。当事業は、2022 年から 2025 年にかけて実施された「タンザニアの多様性ある生産者と乳業者のパートナーシップ（TI3P）」から派生しており、システム全体で酪農家と連携した乳業者が主導する事業推進が、いかに多様性と持続可能性の進展を前進させられるかを実証しています。

DNA が P2DNZ の概念を実証する役割を果たしました。数年にわたる取り組みで得られた教訓は、今後も長期にわたって新興市場地域の酪農乳業セクターの投資や事業計画において役立ち続けるでしょう。

GDP は、得られた学びを 2026 年の活動において世界中の人々に共有する予定です。DNA の各種活動は「パートナーズ・イン・フード・ソリューションズ」の指導の下で継続され、そこで得られた知見は P2DNZ の新興市場地域での活動に引き続き活かされます。



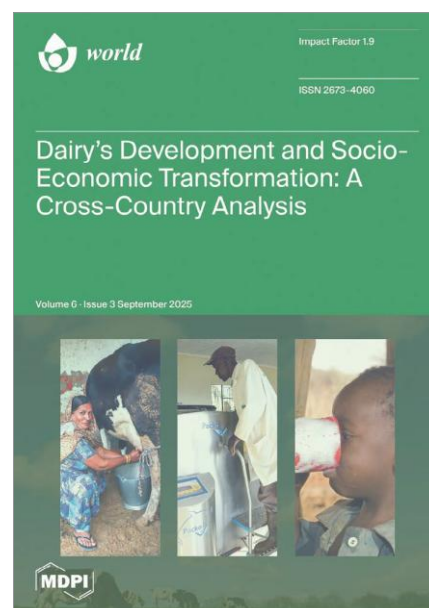
エビデンスを提供する

社会経済的影響：酪農乳業がいかに生計を改善するかを示す

酪農乳業の社会経済的影響力を示す学術論文

この分野で初の査読付論文となる「[酪農乳業の発展と社会経済的変革：多国間分析](#)」は、社会変革における酪農乳業の役割に関する新たな領域を切り開き、酪農乳業セクターの発展がいかに社会に好影響するかを示しました。World誌に掲載された当研究は、酪農乳業セクターが世界中でおよぼす重要な社会経済的影響の全容を示しています。当論文は GDP と FAO が共同で作成しました。

当研究では、公共のデータベースを中心とする様々なデータベースをもとに統合整理した 187 カ国分のデータセットを用いています。その結果は、酪農乳業の発展がいかに酪農家の所得を向上させ、乳業における雇用機会を創出し、消費者の栄養へのアクセスを改善し、政府の税収を強化するかを示しています。つまり、当研究は、すべての人に持続可能な食料・栄養安全保障を確保するような強靱な食料システムと農村社会を構築する上で酪農乳業が中心的な役割を果たすことを示しています。



当論文のデータは、酪農乳業セクターの成長が国連の「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の達成に直接貢献し得ることを示している GASL（持続可能な畜産のためのグローバルアジェンダ）の 2024 年の報告書「[酪農乳業と社会経済発展：データが示すエビデンスとは？](#)」と共通しています。

GDP と FAO は、2025 年を通して、酪農乳業セクターの社会経済的影響について、チリでの IDF ワールドデューリーサミット、ローマでの FAO 持続可能な畜産変革会議、パリでの「成長のための栄養」会議、EAT スtockホルム食料フォーラムなどで繰り返し発表しました。

「酪農乳業のファクト一覧」

酪農乳業は
健康で持続可能な世界を育んでいます

世界の食糧システムへの酪農乳業の貢献

GLOBAL DAIRY
PLATFORM

世界の栄養と食糧安全保障には課題があります

世界は栄養を必要としています

世界の人口が2050年までに100億人近くに達すると予想されており、栄養豊富で気候変動に強い食料の必要性が高まっています¹

- ・ 栄養不良は世界中で続いており、健康を脅かすとともに、病気がちで生産活動に携われない人を増やすことで将来の発展を妨げています¹。
- ・ 世界人口の9.1%にあたる7億3300万人が飢餓を経験しており、栄養不足の状態にあります²。
- ・ 栄養不良が人々の身体的および認知的な機能を阻害することで、生産性におけるコスト損失が毎年3兆ドル発生しています³。



United Nations. 2023. The Sustainable Environment Goals Report Special Edition.
Bill & Melinda Gates Foundation. 2024. The race to nourish a warming world.
Goalkeepers Report.

栄養不良に無縁の国はありません

食料が十分あるにもかかわらず複数の微量栄養素が欠乏している「隠れた飢餓」が、世界中でおよそ20億人に影響しています^{4,5}

- ・ 高所得国では「隠れた飢餓」が栄養過剰（いわゆる過体重や肥満）を伴っていることが多く、医療費を増大させ、健康状態を悪化させ、人類の可能性を世界規模で制限する要因となっています。
- ・ 国連食糧農業機関（FAO）は、牛乳乳製品が、決定的に不足している栄養素であるカルシウムとビタミンB12を含むビタミンやミネラルの重要な摂取源であることを認識しています⁶。酪農乳業セクターは、牛乳乳製品へのアクセスと入手性を優先して確保することで、栄養不良の多重負荷を改善し、すべての人々の健康とウェルビーイングを増進するのに役立つことができます。



Passarelli S, et al. 2024. Global Estimation of Dietary Micronutrient Inadequacies: A Modelling Analysis. The Lancet Global Health.

世界的に高齢化が進んでいます

寿命は延びているものの、健康寿命の延びは小さく、非感染性疾患（NCD）の発生率が上昇しています⁷

- ・ 寿命と健康寿命の差異は、2型糖尿病、認知症、サルコペニア、骨粗鬆症、心血管疾患といった、NCDや加齢に関連する疾患の発生率の上昇と関連しており、ヘルスケアに関する体制・労働力・資金や公衆衛生に関する支出に負担をかけています。高齢者を介護する人が減少しているため、高齢者がより長く生き生きと自立して過ごせるように支援する方策が必要となっています。
- ・ 2050年には、高齢者の80%が低・中所得国に住んでいる状況となり、栄養不良や栄養不良に起因する疾患のリスクを悪化させます⁸。

2050年までに、80歳以上の高齢者の数が
3倍になると予測されています



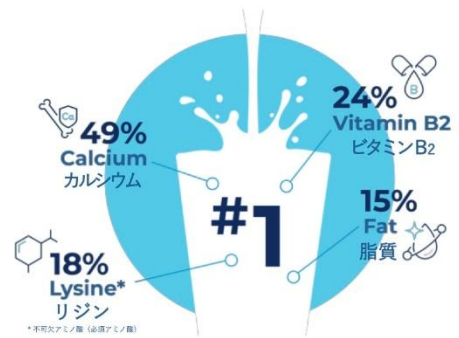
WHO. 2024. Aging and Health Fact Sheet.

酪農乳業が解決策の一つとなります

牛乳乳製品は、全年齢層にとっての栄養源です

FAOは、栄養と健康を改善するために、多種多様な健康的な食事に牛乳を取り入れることを推奨しています⁹

- エチオピア、インド、ケニア、ナイジェリア、タンザニアの5カ国の酪農の生産性と供給量を改善するだけで、2050年までに1億900万人の小児の発育阻害を防ぐことができます³。
- 牛乳乳製品は、栄養密度が高く、カルシウム、ヨウ素、ビタミンB群、質の高いタンパク質など、世界の食事で不足している多くの栄養素を供給しています³。これらの栄養素は、免疫機能、認知機能、健康やウェルビーイングに不可欠のものです³。
- FAOによると、牛乳乳製品の摂取は、成人の死亡（全要因）、高血圧、脳卒中、2型糖尿病、大腸がん、乳がん、肥満、骨粗鬆症のリスクを低下させます⁹。
- 世界保健機関（WHO）は、エネルギー、質の高いタンパク質、微量栄養素の摂取を増やすために高齢者に牛乳乳製品を推奨しています¹⁰。



Smith NW, et al. 2022. Modeling the Contribution of Milk to Global Nutrition. Front Nutr.

牛乳乳製品は、手頃な価格で栄養を摂ることができる食品です

牛乳乳製品は、低コストでまとまった量の栄養素を摂ることができます

- 世界人口の29.1%にあたる23億人が、中等度あるいは重度の食料不安の状況に面しており、十分な食料を日常的に入手することができません³。
- 栄養が適切で動物由来の食品を含まない食事は、栄養を補完する牛乳乳製品などの動物由来食品を含む食事よりもコストが35~45%高くなります¹¹。



Chungchunlam SMS, Moughan PJ. 2024. Diet Affordability: A Key Dimension in the Assessment of Sustainable Food Systems and Healthy Diets. Front Nutr.

酪農乳業は持続可能性のある選択肢です

酪農乳業セクターは、「デーリー・サステナビリティ・フレームワーク」や「酪農乳業ネットゼロへの道筋」などの活動を通して「持続可能性」を改善しています

- 世界全体の酪農場の炭素排出強度は、2000~2022年で約24%減少しました¹²。
- 酪農乳業は、牧草、わら、農業副産物といった人が食べられない25億トン分（乾物換算）の飼料を、質の高いタンパク質や数種の栄養素にアップサイクルしています。世界中の反芻動物の家畜が消費する飼料の95%は、人が食べることができないものです¹³。
- 天然肥料となる牛の糞は、土壌の肥沃度を高め、合成肥料への依存を減らし、作物の収量を向上させます¹⁴。



FAO. 2022. Greenhouse Gas Emissions from Agrifood Systems: Global, Regional and Country Trends, 2000-2020. FAOSTAT Analytical Brief 50.

酪農乳業には影響力があります

生乳は、金額では世界最大の、量では第3位の農業生産品です¹⁵

- 世界中で、1億3300万の酪農場があり、6億人が暮らしています。さらに4億人の生活が酪農乳業関係のフルタイムの仕事によって支えられています。
- 約8000万人の女性が酪農場で雇用され、約3700万の酪農場で活躍しています¹⁵。
- 酪農乳業セクターの発展は、消費者の栄養に優れた食品へのアクセスを向上し、酪農家の収入を増やし、環境への影響は軽減し、政府に税収をもたらし、地域社会の公共事業の改善に充てられるようにします¹⁴。



FAO. 2016. The Global Dairy Sector: Elaborated from GAOSTAT and the World Bank Development Indicators Database.

グローバル・デリー・プラットフォーム
6133 N. River Road, Suite 200
Rosemont, Illinois 60018
USA
TEL: +1 847 627 3388

Info@GlobalDairyPlatform.com
www.GlobalDairyPlatform.com

グローバル・デリー・プラットフォームは、世界の酪農乳業セクターを代表する非営利の業界団体です。95 を超える主要な企業、組合、協会、科学団体、その他のパートナーが加盟しており、その生乳生産量の合計は世界の生産量の 33%を占めています。GDP は、150 カ国以上で活動を展開しています。

GDP は、2025 年の酪農乳業セクターの発展において果たした会員の役割に感謝します。



グローバル・デリー・
プラットフォーム